

令和6年度 朝来市立中川小学校 学校評価

学校教育目標

である(be)学校から、できる(can)学校へ

総合的な学校関係者評価

・今年は１５０周年ということもあり、地域の皆さんからも多大なご協力をいただき、地域に愛されている学校だと感じた。
・運動会や縄跳び発表会など、学校行事の取組からも子どもたちの自主性・主体性・創造性を育もうとされていることが強く感じられた。
・地域で見守り活動を行う中で、子どもたちが良く挨拶をすることができるようになってきたと感じている。
・発達支援や不登校児童支援など厚くしていただいているが、親への支援も関係機関と連携して充実させていただきたい。

自己評価 達成状況（Ａ：達成している Ｂ：概ね達成している Ｃ：あまり達成していない Ｄ：達成していない）

評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	A HPや学級通信の写真、動画など子どもたちの学びの様子が伝わる工夫が充実しており、ブログ楽しみに待っています！との声が、保護者から多く届いている。今後も継続できるよう、更なる効率化が望まれる。	保護者は、紙面やHP、メール配信、CATVからいろいろな情報を入手でき、学校との信頼関係が構築できており良好である。
		学校運営協議会活動の充実	A 150周年記念事業に向けて多くの支援をいただいたことは職員としてしっかり認識しておきたい。150周年記念行事もあり、協力して進めることができたが、PCを活用できる人がもう少しメンバーにいれば、より実効性が増す。	本年度は、創立150周年事業の実施ということで、会員が式典部・事業部・財政部と職務分担を行い、それぞれの成果が十分に発揮できて完成度の高い事業結果となった。
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	A 学級経営の工夫の必要性や具体的な手立てをもっと自ら求めてほしい。それぞれの学級が抱える問題に対処しながら一つの方向に子どもたちの願が向いていくような集団づくりを今後も続けていきたい。	一人一人の良い所を発見し、褒めてあげることを大切に、豊かな学力、豊かな心、健やかな体の育成により力を注いでいただきたい。
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	B 子どもたちに寄り添った対応を心がけている教職員が多く、指導の工夫がなされている。担任だけでなく、縦断の目で児童を見守る体制を整えていることにより、小さな変化にも早く気付くことが出来ている。つながりの希薄さやまずさが事態の把握を遅らせるため、早期の関係性構築が重要。	学校生活の基本的行動（挨拶、トイレ掃除、スリッパ整理など）が良く指導されている。心の奥に悩みや問題を抱えている児童に対して、面談するなどして、認め合い、理解し合うことが必要であり、いじめ防止にも役立つと思う。
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	A 生活指導委員会、校内支援会議等で情報共有、未然防止に努め、職員同士のコミュニケーションが密であり、トラブル等に早急に対応することができている。専門機関など外部機関との連携が充実してきているが、更なる連携を促進するためにも市福祉部局への連携を促すことが必要である。	インターネットによるいじめの未然防止、早期発見、早期対応など充実している。今後は、外部講師を招いてインターネットによる被害状況を知ること大切だと思う。
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	B マニュアルを見直し、教職員の共通理解が図れたが、地域の実態に応じたより適切な内容になるよう継続した点検を行う必要がある。	避難訓練の実施において、地震や火災、煙などの対応方法を学校で覚えることができている。
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	B 防犯教育については、隔年等で良いので実施できれば良いと思う。避難訓練も、避難後の職員の動きをシミュレートして実際にやってみる。消火栓の放水訓練を行ってみるなど、より実効的な取り組みをしていく必要がある	南海・東南海地震などを想定し、とるべき行動、命を守る最適な行動を児童に指導願いたい。防犯については、地域課題の一つであり、地域でも通学路に防犯灯を設置するなど、安全性の向上に努めた。
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	A 今年も個別に対応する必要がある事例があったが、その都度それぞれの関係の先生方で相談したり模索したりしながら進められた。通年学級担任に対する自立活動についての研修を充実させ、個に対する支援のノウハウを学級経営にも反映できるようにして行く必要がある。	個に応じた指導を行い、丁寧なアセスメントや適切な指導を継続して行っていたきたい。県や市の特別支援教育や障害児に関する計画に則った対応を続けていきたい。
	安全安心に過ごすことができる学校づくり	熱中症対策、インフルエンザ等の対策づくり	A 感染症や熱中症対策として、行事の実施方法をその時の状況に合わせて行ってきた。日常の学校生活を健康に生活できるようにSSSの協力を得ながら消毒作業を行うなど保健衛生体制を整えてきた。□	引き続き、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなど、これまでの経験をいかした防止策や対応を行っていただきたい。
	あさごドリームアップ事業	特色ある学校づくり	B ある会議で外部の方から「特色ある学校とは何を指すのか」という辛辣な意見が出た。特色を持つことのメリットは何処にあるのかから考え、本校の実態に応じた取り組み内容の再検討を行う必要がある。	地域の外部講師を招いての事業はとても良いと思う。書道家津江先生の書道講座などにおいて、子どもたちの取り組み内容や意欲が高まっていると思う。
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりのUD化推進	B 児童一人一人の実態に応じた支援体制は充実してきているが、授業そのものが授業者の説明中心の授業が散見されるため、個別的な学びを充実させるための研修を推進が必要である。	タブレット端末を利用して授業するなど、すべての子どもが使いやすく学びやすい情報環境が整っている。UD化においては、「参加」「理解」「習得」「活用」が意識され、推進されている。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	A あさごがんばり学びタイムや隙間時間を使って、学習補充を行うことができている。同室複数指導など日常授業の中で、児童の実態に即した指導方法を検討するなど、改善を進めている。□	授業についていけない子どもがいる場合、一人一人の能力に合わせた課題の提示など、指導方法の工夫・充実が必要である。
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	B 「考え、議論する道徳」を目指していることを再認識したい。議論するためには児童の多面的・多角的な考えが土台となるので、まずそこを培うための指導の在り方を検討する必要がある。	道徳心の高揚はいじめ防止にもつながる。生きていくために、物事の良し悪しを理解させ、実践事例で学ぶことなど、マナーの基本を身につけさせてほしい。
	情報教育	情報活用能力の育成に向けた指導改善	B タブレット端末は多くの教員が活用していた。情報研修を何度か行うことにより職員全体の技術向上につながったが、授業改善や学力向上のための活用方法の検討を重ねる必要がある。□	情報収集、判断、処理、表現、創造など、適切な発言、伝達ができる能力を高めてやってほしい。コンピュータなどの情報機器を身近な道具として親しみを味わい、活用できる能力をさらに高めてほしい。
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	B 児童の主体性を生かした「あいさつリーダー」「川tube」等を全校生で取り組む活動が多くあり、友だちの新たな一面を知れたり、自分の自信につながったりと、自己肯定感を高めることができた児童がある。	人権作文やあすなろ学級などの取組をよく実施されており、地域にも発信されていると思う。
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A 自然学校での家庭を離れての生活は、楽しいことばかりではなく不安や困難なこともあったが、それを乗り越えた達成感は大きく自信につながった。準備や運営などで教員の負担は大きいが、成長を感じられた保護者も多くあり、成果を上げている。□	自然学校は体験活動を通じて、自然に感謝の意や畏敬の念を育成することもできており、今後も充実させてほしい。トライやるウィークの中学生が小学校に読み聞かせ来る工夫もされており、大変有意義である。
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	A 食育指導など、給食センターや栄養教諭との連携はとれており、今後も機会が充実させていきたい。食育研究大会の成果と財産を今後も生かしていきたい。	備食への個別指導など、正しい食についての指導を充実してほしい。子どもからは学校給食はおいしいとの声をよく聞いている。
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B さまざまな行事で、自分の頑張りを振り返って記録しているが、これらのより効果的な活用法をさらに検討していく必要がある。キャリアアノート、キャリアパスポートについて、中学校や高校での活用状況について研修し、その内容を踏まえた小学校での取組の検討も必要である。	全体の評価から見て、この部分の評価が低くなっている。児童のキャリアプランニング能力の育成により一層努めてほしい。
その他	・創立１５０周年に向けた、地域と連携した教育活動の展開 ・業務改善に向けた取り組み		A 150周年記念事業が、盛会内に開催され、地域の方々への参加も多数あり、児童も意欲的に取り組む様子が見られた。中川小学校区の中学校の高さが高くなったため、今後の取組に反映させていく必要がある。校時差の見直し、留守番電話やさくら連絡網での欠席連絡の導入、運動会生搬去工事などによる業務改善に伴い、教職員の勤務時間の適正化を図ることができた。	150周年記念事業の実施にあたり、11回の実行委員生を重ね、計画・立案を行った。地域住民への写真や資料の提供依頼など、内容の充実を図って実施した結果、一体感が生まれた思い出多い事業となった。のみによる梅組探点を取り入れるなどの工夫をしていただき、職員の勤務時間の適正化、職員の心のケア、定時退庁の完全実施を達成してほしい。